

博物館新任職員より

【動物部門 羽角 正人】

平成30年4月から動物部門でお世話になっている羽角正人と申します。山形県立博物館の場合、動物資料は41,310点あり、国立科学博物館主催のS-Netへは今年度中に15,000件の登録をおこなう予定です。これが私の主な仕事で、現在は未登録の動物資料の総てで学名や和名のチェックをおこなっています(綱・目・科レベルで変更されている種が少なくなく、ひとつひとつの種を最新のデータベースと照らし合わせています)。よく「大変な仕事だ」と感嘆されることが多いのですが、実は、私には楽な仕事です。国際専門誌や和文誌の編集部から論文原稿の査読依頼を年に数件ほど受けていて、原稿の文章構成、論理性、学名・和名の適切さを常にチェックして来たことが今に役立っているようです。

かつてハコネサンショウウオとされた種は、2014年の新種記載で最上川流域と蔵王山を境に北側がキタオウシュウサンショウウオ、南側がバンダイハコネサンショウウオに分けられました。私は、この最新の情報を基に、博物館所有の資料7点をキタオウシュウサンショウウオ3採集地、バンダイハコネサンショウウオ4採集地に分けました。これらを含めて、山形県内に生息する両生類(カエル類・サンショウウオ類)の分布や生態に関するパネル展示を模索している最中ですが、館内の常設展示を変更するのは容易でないことが分かって来ましたので、来年度の特別展を企画したいと考えています。